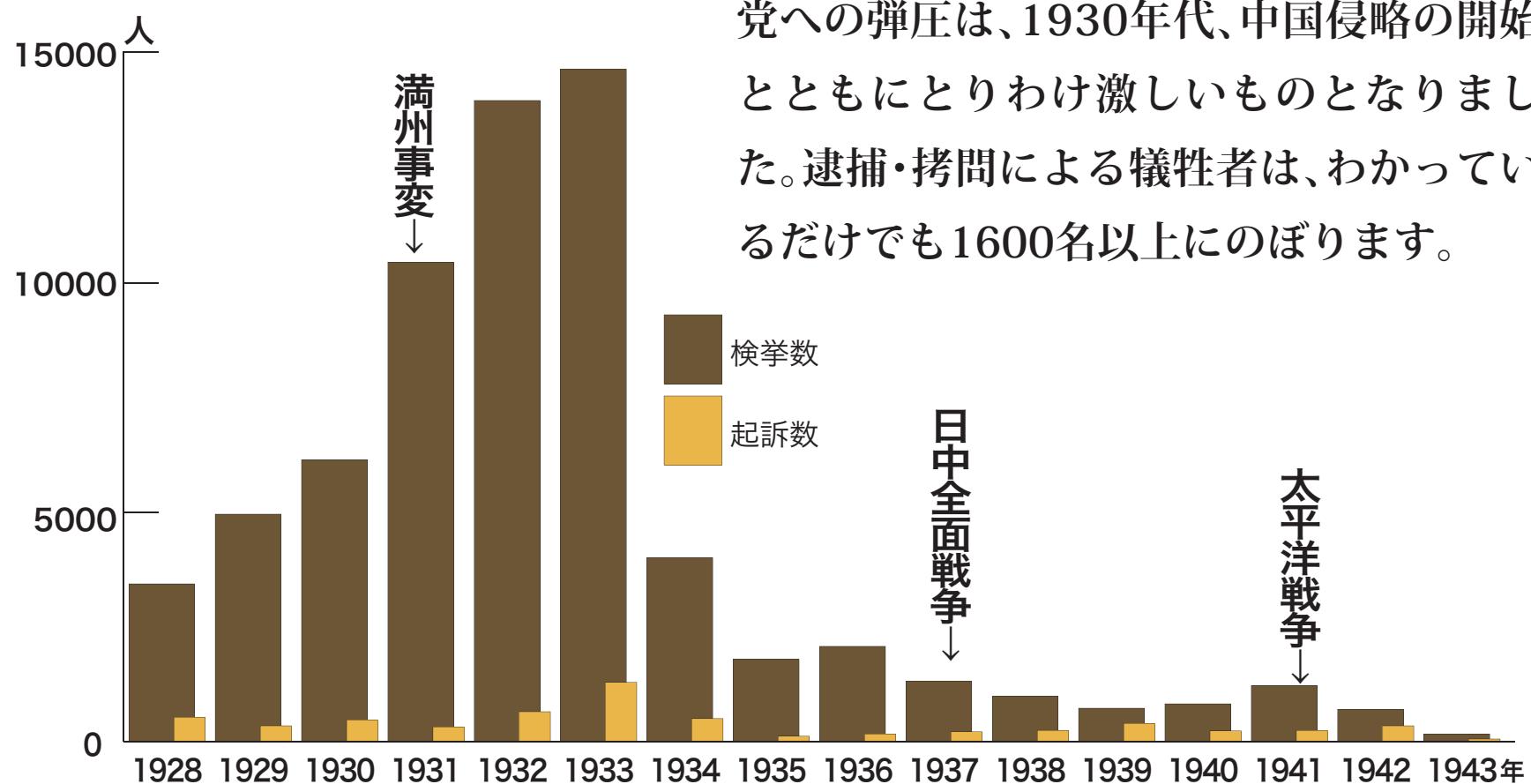


侵略戦争に命がけで反対した 日本共産党

治安維持法による検挙者・起訴者の数



日本共産党が、戦前、民主主義と平和の旗をかけてたたかいぬいたことは、私たち日本共産党の誇りであるだけではなく、大きな国民的な意義をもっています。

小泉前首相の靖国参拝問題について、日本共産党は、問題の核心は、遊就館に象徴される「あの戦争は正しかった」という戦争観を肯定することにある、と批判してきました。この批判は、国内外に大きく広がりました。私たちが、こうした核心をつく批判ができた根本には、戦前のたたかいがあります。

また、このたたかいの歴史は、アジア諸国の人々と交流をすすめる上で、大きな信頼のみなもとになっています。

治安維持法と特高警察による日本共産党への弾圧は、1930年代、中国侵略の開始とともにとりわけ激しいものとなりました。逮捕・拷問による犠牲者は、わかっているだけでも1600名以上にのぼります。



日本共産党は2005年5月、不破議長(当時)の時局報告会を開き、日本の侵略戦争を「正しい戦争」とする靖国神社の戦争観、歴史観を厳しく批判。「靖国史観」をはじめて被告席につけたと大きな反響を呼びました。



「日本のために無罪判決を求める靖国神社」との見出しで「靖国史観」を批判したニューヨークタイムズ紙2005年6月22日付。侵略正当化への批判は世界に広がりました。